

平成 18 年度 大学院入学者選抜試験問題 (第 2 次)

専門科目

経済政策・経済史・経営各論・会計分野

以下の問 1～問 5 の中から 1 問を選んで解答しなさい。

問 1 (経済政策) 郊外の大型商業施設に対する規制の是非を論じなさい。

問 2 (経済政策) 次の (1)、(2) いずれか 1 題を選択して、解答しなさい。

- (1) 2005 年 3 月に策定された「新たな食料・農業・農村基本計画」においては、日本の食料自給率を現在の 40 % (供給熱量ベース) から、10 年後には 45 % (同ベース) に引き上げる方針が示された。このことを実現するために取り組まなければならない課題について、生産者、流通・食品産業、消費者の側面から述べなさい。
- (2) 株式会社が農地を所有することの是非について、いくつかの論点を示しながら、あなたの考えを述べなさい。

問 3 (経済史) 世界史的に見て戦後の経済成長率は戦前のそれよりはるかに高い。その理由は何か。

問4 (経営各論) 以下の(1)、(2)、(3)のうちいずれか1題を選び、解答せよ。

- (1) 今日の企業をとりまく環境状況を踏まえて、望ましい企業の条件にはどのようなものがあるか。たとえば、環境問題での貢献や広く社会貢献への取り組み、あるいは公正な取引や公明正大な企業経営、その基礎としての規律ある統治構造の確立、働くものの意欲を惹き出せること、雇用の維持確保、持続的な成長力、何よりしっかりした業績など、いろいろなことがあげられるであろう。ここでは望ましい企業や「よい会社」を考える上で、必ずしも特定のアプローチに立つことを要求するものではない。しかし、企業本来の役割と企業に要請される今日的な内容の関係を考慮して回答することは望ましい。ともあれ、回答者が考える上でもっとも適切と思う角度から、今日的に見た「よい会社(望ましき企業)」の条件について述べよ。
- (2) 今新しく事業を始めるとする。その場合、考慮すべきこと、検討すべきことにはどのようなことがあるか、説明せよ。
- (3) 企業経営において人と組織のあり方はきわめて重要なことである。では、今日の企業をとりまく情勢の下で、人と組織のあり方には、どのようなことが要請されているか。また、企業側においては、これを受けてどのような方策がとられているか、自らの知るところや考えを述べよ。

問5 (会計学) 原価主義、時価主義、低価主義を比較論評しなさい。できれば最近の日本の制度会計における時価主義導入の動向にも触れること。